

厚生労働大臣 殿

山梨大学医学部附属病院長  
星 和

特定機能病院山梨大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	71.0人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護婦及び准看護婦

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	194人	70.0人	264.0人	看護補助者	38人	診療エックス線技師	人
歯科医師	4人	3.2人	7.2人	理学療法士	5人	臨床検査技師	31人
薬剤師	23人	4人	27.0人	作業療法士	人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	2人	その他	3人
助産師	12人	1.7人	13.7人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	343人	24.9人	367.9人	臨床工学技士	6人	医療社会事業従事者	3人
准看護師	人	人	人	栄養士	1人	その他の技術員	7人
歯科衛生士	1人	人	1.0人	歯科技工士	1人	事務職員	61人
管理栄養士	4人	人	4.0人	診療放射線技師	22人	その他の職員	45人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数に含めないで記入すること。  
 3. 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を少数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	501.0人	4.6人	505.6人
1日当たり平均外来患者数	1,087.1人	33.9人	1,121.0人
1日当たり平均調剤数	外来 202.15剤	入院 567.32剤	計 769.47剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日で除した数を記入すること。  
 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	22人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	18人
・多発性硬化症	33人	・ウェゲナー肉芽腫症	1人
・重症筋無力症	47人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	31人
・全身性エリトマトーデス	98人	・多系統萎縮症	10人
・スモン	2人	・表皮水泡症(接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	13人	・膿疱性乾癬	1人
・サルコイドーシス	15人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・筋萎縮性側索硬化症	21人	・原発性胆汁性肝硬変	15人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	40人	・重症急性膵炎	1人
・特発性血小板減少性紫斑病	31人	・特発性大腿骨頭壊死症	17人
・結節性動脈周囲炎	8人	・混合性結合組織病	9人
・潰瘍性大腸炎	44人	・原発性免疫不全症候群	1人
・大動脈炎症候群	8人	・特発性間質性肺炎	0人
・ビュルガー病	14人	・網膜色素変性症	33人
・天疱瘡	14人	・プリオン病	1人
・脊髄小脳変性症	30人	・原発性肺高血圧症	3人
・クローン病	15人	・神経繊維腫症	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	0人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・パーキンソン病関連疾患	57人	・突発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	0人
・アミロイドーシス	2人	・ライソゾーム病(ファブリー(Fabry)病)含む	1人
・後縦靭帯骨化症	13人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・ハンチントン病	0人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断部門との開催状況 ※毎週開催 乳腺・甲状腺症例検討会 婦人科症例検討会 呼吸器症例検討会 皮膚科症例検討会	※毎月開催 第一外科症例検討会 泌尿器科使症例検討会 腎生検症例検討会(不定期) 骨軟部腫瘍症例検討会(不定期)
剖検の状況	剖検症例数 20例	剖検率 8.5%

(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨、頭蓋骨の観血的移動術	有・ <del>無</del>	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <del>無</del>	人
・溶血性貧血症の病因解析ならびに遺伝子解析診断法	有・ <del>無</del>	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法	有・ <del>無</del>	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <del>無</del>	人
・人工中耳	有・ <del>無</del>	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	<del>有</del> ・無	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <del>無</del>	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・ <del>無</del>	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <del>無</del>	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <del>無</del>	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <del>無</del>	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <del>無</del>	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <del>無</del>	人
・肺気腫のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <del>無</del>	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <del>無</del>	人
・筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	有・ <del>無</del>	人
・SDI法による抗癌剤感受性試験	有・ <del>無</del>	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <del>無</del>	人
・栄養障害型表皮水疱瘡のDNA診断	有・ <del>無</del>	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <del>無</del>	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <del>無</del>	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <del>無</del>	人
・抗癌剤感受性試験	有・ <del>無</del>	人
・子宮頸部前癌病変のHPV-DNA診断	有・ <del>無</del>	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <del>無</del>	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <del>無</del>	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <del>無</del>	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <del>無</del>	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	<del>有</del> ・無	12人
・成長障害のDNA診断	有・ <del>無</del>	人
・生体部分肺移植術	有・ <del>無</del>	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内開脈大循環短絡術	有・ <del>無</del>	人
・乳房漏存療法における鏡視下腋抗郭清術	有・ <del>無</del>	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <del>無</del>	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <del>無</del>	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <del>無</del>	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <del>無</del>	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <del>無</del>	人
・悪性黒色腫、乳癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <del>無</del>	人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・ <del>無</del>	人
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <del>無</del>	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <del>無</del>	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・(無)	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・(無)	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・(無)	人
・カフェイン併用化学療法	有・(無)	人
・31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非浸襲診断	有・(無)	人
・特発性男性不妊症・性腺機能不全症のDNA診断	有・(無)	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・(無)	人
・遺伝性コプロポルフィリン症のDNA診断	有・(無)	人
・固形腫瘍の(神経芽腫)のRNA診断	有・(無)	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・(無)	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・(無)	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・(無)	人
・膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術(膝体尾部切除または核出術)	有・(無)	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・(無)	人
・悪性脳腫瘍に対する抗癌剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・(無)	人
・高発癌性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・(無)	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・(無)	人
・Q熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断	有・(無)	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・(無)	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・(無)	人
・抗癌剤感受性試験(CD-DST法)	有・(無)	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・(無)	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・(無)	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・(無)	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・(無)	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・(無)	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・(無)	人
・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いた癌ワクチン療法	有・(無)	人
・内視鏡下甲状腺癌手術	有・(無)	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・(無)	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・(無)	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・(無)	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・(無)	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するYagLaserによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・(無)	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・(無)	人
・活性化血小板の検出	有・(無)	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・(無)	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・(無)	人
・隆起性皮膚繊維肉腫の遺伝子診断	有・(無)	人
・末梢血管細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・(無)	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・(無)	人
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・(無)	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・(無)	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘術	有・(無)	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・(無)	人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	(有)・(無)	3人
・自己腫瘍(組織)及び樹脂細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・(無)	人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・ <del>無</del>	人
・顎顔面補綴	<del>有</del> ・無	0人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <del>無</del>	人
・歯周組織再生誘導法	有・ <del>無</del>	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <del>無</del>	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <del>無</del>	人
・X線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <del>無</del>	人
・レーザー応用による齲蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <del>無</del>	人
・顎関節鏡下レーザー手術併用による円板縫合固定術	<del>有</del> ・無	0人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <del>無</del>	人
・耳鼻咽喉領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <del>無</del>	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <del>無</del>	人
・自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <del>無</del>	人
・画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <del>無</del>	人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <del>無</del>	人
・強度変調放射線治療	有・ <del>無</del>	人
・胎児心超音波検査	有・ <del>無</del>	人
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <del>無</del>	人
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <del>無</del>	人
・インプラント義歯	有・ <del>無</del>	人
・顎顔面補綴	<del>有</del> ・無	0人
・人工中耳	有・ <del>無</del>	人
・歯周組織再生誘導法	有・ <del>無</del>	人
・抗がん剤感受性試験	有・ <del>無</del>	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <del>無</del>	人
・生体部分肺移植術	有・ <del>無</del>	人
・活性化血小板の検出	有・ <del>無</del>	人
・抹消血管細胞による血管再生治療	有・ <del>無</del>	人
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <del>無</del>	人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <del>無</del>	人
・超音波骨折治療法	有・ <del>無</del>	人
・眼底三次元画像解析	有・ <del>無</del>	人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <del>無</del>	人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <del>無</del>	人
・X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <del>無</del>	人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <del>無</del>	人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。  
3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 千円	補助元又は委託元
細胞障害因子の移植片対白血病効果における意義と臨床応用に向けた研究	犬飼 岳史	小児科学	1,600	補委 文部科学省
難治性小児白血病におけるアポトーシス耐性機序の解明と克服を目指した治療法の確立	中澤 眞平	小児科学	1,900	補委 日本学術振興会
C型肝炎ウイルスレプリコン系によるHCV増殖機構の解析とその制御	榎本 信幸	内科学1	5,000	補委 日本学術振興会
ウイルス感染防御でのマスト細胞の役割の解明及びマスト細胞機能制御による免疫療法	島田 眞路	皮膚科学	7,400	補委 日本学術振興会
がん幹細胞に発現する転写因子を標的とした新規分子標的療法の開発	小松 則夫	血液内科	5,600	補委 日本学術振興会
ゲフィニチブ(インプレツ)と放射線照射の併用効果:抗腫瘍作用と放射線肺炎の検討	大西 洋	放射線医学	500	補委 日本学術振興会
ヒト癌細胞核の染色体高次構造の異常とRNA転写制御に与える影響	村田 晋一	人体病理学	500	補委 日本学術振興会
躁うつ病の連鎖領域および位置的候補遺伝子の解析	塩江 邦彦	精神神経医学・臨床倫理学	600	補委 日本学術振興会
血管新生多様性と選択性の解析に基づく癌転移制御の可能性に関する研究	板倉 淳	外科学1	700	補委 日本学術振興会
ヒト子宮内膜癌における性ステロイドホルモン受容体アイソフォームの発現の解析	平田 修司	産婦人科学	1,000	補委 日本学術振興会
動脈硬化形成における血管内皮細胞のCD36の発現意義の解明	岩佐 敏	病理部	600	補委 日本学術振興会
C型肝炎ウイルス複製複合体の細胞内局在によるインターフェロン耐性機構の解明	前川 伸哉	内科学1	1,700	補委 日本学術振興会
膵管細胞を膵β細胞へ分化誘導する遺伝子の同定と生体反応	會田 薫	内科学3	1,600	補委 日本学術振興会
HIF-1αを分子標的とした新たな白血病治療法の開発	桐戸 敬太	血液内科	1,300	補委 日本学術振興会
尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎患者CD4、CD25制御性T細胞の機能解析	相山 秀昭	皮膚科学	1,100	補委 日本学術振興会
胃癌患者における単球細胞内サイトカインの検討と単球のHeterogeneity	須貝 英光	外科学1	1,300	補委 日本学術振興会
虚血性神経損傷におけるグリシンの役割について	木内 博之	脳神経外科学	1,300	補委 日本学術振興会
麻酔前保温および老化が体温(中枢温・末梢温)に及ぼす影響に関する研究	松川 隆	手術部	2,100	補委 日本学術振興会
ヒト前立腺癌におけるProstaglandin分解代謝系遺伝子の発現異常の役割	野村 照久	泌尿器科学	1,700	補委 日本学術振興会
培養細胞と実験動物個体を用いた包括的かつ迅速な網膜神経節細胞治療の研究と臨床応用	柏木 賢治	眼科学	1,500	補委 日本学術振興会
重症呼吸不全に対する液体換気の有効性と安全性に関する基礎的検討	松田 兼一	救急部	900	補委 日本学術振興会
データ・マイニングによるC型慢性肝炎・肝細胞癌の病態解明とその臨床応用	朝比奈 靖浩	内科学1	1,800	補委 日本学術振興会
B型肝炎ウイルス・ポリメラーゼ遺伝子解析による慢性肝炎の病態解明	黒崎 雅之	内科学1	1,800	補委 日本学術振興会
血小板上受容体型チロシンフォスファターゼRPTPベータ:ピロリ菌関連疾患との関係	尾崎 由基男	臨床検査医学	2,200	補委 日本学術振興会
血小板凝集を惹起する新しい受容体CLEC-2:抗血栓薬新規ターゲット蛋白の可能性	井上 克枝	臨床検査医学	2,800	補委 日本学術振興会
11q23転座型ALLにおけるFLT3/FLT3リガンドシステムの解析	杉田 完爾	小児科学	1,900	補委 日本学術振興会
担癌マウスにおける免疫抑制状態の解析とその回避による腫瘍ワクチン増強効果の検討	柴垣 直孝	皮膚科学	2,200	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 千円	補助元又は委託元
重症うつ病の電気痙攣治療による脳機能画像変化と認知機能に関する検討	小林 薫	精神神経医学・臨床倫理学	1,200	③補委 日本学術振興会
胃癌、食管癌における術後アジュバントとしての癌ワクチン療法の開発	河野 浩二	外科学1	1,700	③補委 日本学術振興会
神経再生における脂肪酸結合蛋白の役割ー各種ノックアウトマウスを用いての研究ー	内田 幹人	脳神経外科学	1,700	③補委 日本学術振興会
腰痛解明への分子細胞学的アプローチと新しい治療法の確立	波呂 浩孝	整形外科学	2,300	③補委 日本学術振興会
虚血後の脳血管のセボフルラン、プロポフォールに対する反応とそのメカニズム	石山 忠彦	麻酔科学	2,300	③補委 日本学術振興会
プロスタグランジンチャランスポーターと細胞内外受容体を介する腫瘍増殖抑制機構の解明	野澤 宗裕	泌尿器科学	2,600	③補委 日本学術振興会
自己分泌型遊走因子による上皮間葉移行とがん細胞悪性化の機構解明	新中 康史	歯科口腔外科	1,800	③補委 日本学術振興会
ホメオボックスHOXA9によるHOXB4の機能制御と白血病発症	小松 則夫	血液内科	1,600	③補委 文部科学省
レーザー加工による超極細繊維を用いた新しい医療材料の開発	進藤 俊哉	外科学2	1,000	③補委 文部科学省
脂質ラフト制御によるC型肝炎治療戦略の開発	榎本 信幸	内科学1	1,700	③補委 文部科学省
トランスジェニックマウスと培養網膜神経節細胞を用いた視神経障害機序研究	間瀬 文彦	眼科学	900	③補委 文部科学省
甲状腺乳頭癌における新しい発癌メカニズム	中澤 匡男	人体病理学	1,400	③補委 文部科学省
臨床で認められた遺伝子変異を応用したHCV増殖抑制機構の解明	板倉 潤	内科学1	1,700	③補委 文部科学省
肺癌に対するVEGF系を標的とした新たな血管新生抑制療法の開発	深澤 光晴	内科学1	1,700	③補委 文部科学省
Dkk4による大腸癌Wntシグナルの分子制御機構の解明	山口 達也	内科学1	1,500	③補委 文部科学省
小児急性リンパ性白血病における感染を契機にした自然退縮の機序の解明	赤羽 弘資	小児科学	500	③補委 文部科学省
皮膚悪性腫瘍に対する抗血管新生療法の新規標的としての周皮細胞の検討	古橋 正男	皮膚科学	1,500	③補委 文部科学省
新しい検出法を用いたダニアレルギー性鼻炎患者末梢血の抗原特異的T細胞の研究	松岡 伴和	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,600	③補委 文部科学省
C型肝炎ウイルスによる自然免疫の攪乱機構の解明	北村 敬利	内科学1	1,800	③補委 文部科学省
顆粒球分化の調節機構の解明:未分化性を標的とした新たな抗腫瘍療法を目指して	中村 誠	小児科学	1,000	③補委 文部科学省
悪性黒色腫の転移メカニズムの解明	原田 和俊	皮膚科学	2,000	③補委 文部科学省
上気道ウイルス感染機序解明のための扁桃を用いた新しいアプローチ法	森山 元大	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,200	③補委 文部科学省
ヒト種別にみたGAD抗体の自己免疫性1型糖尿病の発症・進展に対する関与の研究	田中 昌一郎	内科学3	900	③補委 日本学術振興会
牛乳のDMBA乳腺腫瘍の発生に及ぼす影響ー妊娠牛と非妊娠牛から搾った牛乳の比較	星 和彦	産婦人科学	1,100	③補委 日本学術振興会
血栓止血におけるフィブリンの役割の解明	井上 修	臨床検査医学	1,340	③補委 日本学術振興会
網膜神経節細胞障害:局所・中枢における高次細胞障害機構とその保護・再生治療の研究	柏木 賢治	眼科学	1,400	③補委 文部科学省
早期の癌に対する標準的放射線治療方法確立のための臨床試験	大西 洋	放射線医学	400	③補委 文部科学省
小児アレルギー性鼻炎の成人への移行を阻止するための治療法の確立に関する研究	増山 敬祐	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,000	③補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 千円	補助元又は委託元
スモンに関する調査研究	塩澤 全司	神経内科	600	③補委 厚生労働省
重症難病患者の地域支援体制の構築に関する研究	塩澤 全司	神経内科	700	③補委 厚生労働省
定位放射線治療による予後改善に関する研究	大西 洋	放射線医学	500	③補委 厚生労働省
早期前立腺がんにおける根治術後の再発に関する標準的治療法の確立に関する研究	武田 正之	泌尿器科学	300	③補委 厚生労働省
B型及びC型肝炎ウイルス感染者における新たな発がん予防法の確立のための肝がん発生等の病態解明に関する研究	榎本 信幸	内科学1	3,000	③補委 厚生労働省
C型肝炎新規治療開発に資するプロテオーム解析を用いた治療標的分子の網羅的検索系とヒト肝細胞キマウスHCV感染モデルを用いた実証系の開発に関する研究	榎本 信幸	内科学1	3,000	③補委 厚生労働省
移植医療に関する国際比較分析に関する研究	貫井 英明	脳神経外科学	2,000	③補委 厚生労働省
リアルタイムモニター飛散数と現状の治療によるQOLの関連性の評価研究と花粉症根治療法の開発	増山 敬祐	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,500	③補委 厚生労働省
浸潤性膀胱がんの予後改善をめざした集学的治療の研究	武田 正之	泌尿器科学	800	③補委 厚生労働省
その他、がんの実体把握とがん情報の発信に関する重要な研究	大西 洋	放射線医学	120	③補委 厚生労働省
治療抵抗性うつ病に対する治療システム構築のための研究:電気けいれん療法と磁気刺激療法	本橋 伸高	精神神経医学・臨床倫理学	1,100	③補委 国立精神・神経センター
統合失調症治療におけるECTのガイドライン作成とその検証	本橋 伸高	精神神経医学・臨床倫理学	450	③補委 国立精神・神経センター
低酸素回路と低酸素モニター方式に関する研究	杉山 央	小児科学	800	③補委 国立成育医療センター
C型肝炎に対する抗ウイルス治療の効果を予測する遺伝子検査法の開発	榎本 信幸	内科学1	2,000	③補委 (独)科学技術振興機構
術後補助化学療法におけるフッ化ピリミジン系薬剤の有用性に関する比較臨床試験(治療切除直腸癌に対するUFT療法とTS-1療法との比較検討)	藤井 秀樹	外科学1	492	③補委 (財)がん集学的治療:研究財団
頭頸部扁平上皮癌根治治療後のTS-1補助化学療法法の検討	増山 敬祐	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	105	③補委 (財)先端医療振興財団
「Stage II 大腸癌における分子生物・病理学的マーカーによる再発high-risk群とフッ化ピリミジン感受性群の選択に関する研究」	飯野 弥	外科学1	53	③補委 (財)先端医療振興財団
「Stage II 大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究」第Ⅲ相臨床試験	飯野 弥	外科学1	105	③補委 (財)先端医療振興財団
				計73件



2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Hepatology 44: 326-334, 2006.4	Influence of Genotypes and Precore Mutations on Fulminant or Chronic Outcome of Acute Hepatitis B Virus Infection	Atsushi Ozasa, Yasuhito Tanaka, Etsuro Orito, Masaya Sugiyama, Jong-Hon Kang, Shuhei Hige, Tomoyuki Kuramitsu, Kazuyuki Suzuki, Eiji Tanaka, Shun-ichi Okada, Hajime Tokita, Yasuhiro Asahina, Kazuaki Inoue, Shun-ichi Kakumu, Takeshi Okanoue, Yoshikazu Murawaki, Keisuke Hino, Morikazu Onji, Hiroshi Yatsushashi, Hiroshi Sakugawa, Yuzo Miyakawa, Ryuzo Ueda, Masashi Mizokami	第一内科
2	Kidney Int. 70(5): 892-900, 2006.5	Screening and identification of substances that regulate nephrin gene expression using engineered reporter podocytes	Yamauchi K, Takano Y, Kasai A, Hayakawa K, Hiramatsu N, Enomoto N, Yao J, Kitamura M	第一内科
3	J Gastroenterol. 41(8): 750-757, 2006.8	Negative regulation of intracellular hepatitis C virus replication by interferon regulatory factor 3	Yamashiro T, Sakamoto N, Kurosaki M, Kanazawa N, Tanabe Y, Nakagawa M, Chen CH, Itsui Y, Koyama T, Takeda Y, Maekawa S, Enomoto N, Sakugawa H, Watanabe M	第一内科
4	J Viral Hepatology 13(9): 582-590, 2006.9	Site-specific mutation of the interferon sensitivity-determining region (ISDR) modulates hepatitis C virus replication	Kohashi T, Maekawa S, Sakamoto N, Kurosaki M, Watanabe H, Tanabe Y, Chen CH, Kanazawa M, Kakinuma S, Yamashiro T, Itsui Y, Koyama T, Enomoto N, Watanabe M	第一内科
5	J Viral Hepatology 13(10): 690-700, 2006.10	Expressional screening of interferon-stimulated genes for antiviral activity against hepatitis C virus replication	Itsui Y, Sakamoto N, Kurosaki M, Kanazawa N, Tanabe Y, Koyama T, Takeda Y, Nakagawa M, Kakinuma S, Sekine Y, Maekawa S, Enomoto N, Watanabe M	第一内科
6	山梨県立看護大学短期大学部 紀要 11(1): 15-24, 2006.3	C型慢性肝炎患者におけるインターフェロン療法の中絶に関連する要因と継続支援	巴山玉蓮, 古屋洋子, 岡本知子, 畠山義子, 望月美鶴, 小林美雪, 城戸口親史, 前澤美代子, 仲沢富枝, 廣瀬雄一, 榎本信幸, 坂本 穰, 星 旦二	第一内科
7	ENDOSCOPIC FORUM for digestive disease 22(2): 124-128, 2006	胃過形成性ポリープを発生母地とした隆起型印環細胞癌の1例	浅川幸子, 佐藤 公, 山口達也, 大塚博之, 田尻亮輔, 松井 啓, 花輪充彦, 植竹智義, 大高雅彦, 中村俊也, 榎本信幸, 須貝英光, 藤井秀樹, 岩佐 敏, 土橋 洋	第一内科
8	Hepatology Research 34: 41-49, 2006	Divergent activities of interferon-alpha subtypes against intracellular hepatitis C virus replication	Tomoyuki Koyama, Naoya Sakamoto, Yoko Tanabe, Mina Nakagawa, Yasuhiro Itsui, Yoshie Takeda, Sei Kakinuma, Yuko Sekine, Shinya Maekawa, Yoshiaki Yanai, Masashi Kurimoto, Mamoru Watanabe	第一内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
9 Journal of the American College of Cardiology 48(1):43-50	Atorvastatin increases plasma soluble Fms-like tyrosine kinase-1 and decreases vascular endothelial growth factor and placental growth factor in association with improvement of ventricular function in acute myocardial infarction.	Yasushi KODAMA, Yoshinobu KITTA, Takamitsu NAKAMURA, Hajime TAKANO, Ken UMETANI, Daisuke FUJIOKA, Yukio SAITO, Kenichi KAWABATA, Junei OBATA, Akira MENDE, Tsuyoshi KOBAYASHI, Kiyotaka KUGIYAMA	第二内科
10 American journal of physiology Heart and circulatory physiology 291:H2641-H2646	Transcardiac adiponectin gradient is independently related to endothelial vasomotor function in large and resistance coronary arteries in humans.	Hajime TAKANO, Yasushi KODAMA, Yoshinobu KITTA, Takamitsu NAKAMURA, Junei OBATA, Akira MENDE, Kenichi KAWABATA, Yukio SAITO, Daisuke FUJIOKA, Tsuyoshi KOBAYASHI, Hideyuki HASEBE, Kiyotaka KUGIYAMA	第二内科
11 Circulation Journal 71(2):252-255	High Prevalence of Paroxysmal Atrial Fibrillation and / or Atrial Flutter in Metabolic Syndrome.	Ken UMETANI, Yasushi KODAMA, Takamitsu NAKAMURA, Akira MENDE, Yoshinobu KITTA, Kenichi KAWABATA, Junei OBATA, Hajime TAKANO, Kiyotaka KUGIYAMA	第二内科
12 糖尿病と妊娠 6巻1号:104-107, 2006 10月	妊娠関連発症1型糖尿病に関する全国調査	川崎英二、清水一紀、花房俊昭、今川彰久、岩橋博見、内瀧安子、金塚東、小林哲郎、島田朗、丸山太郎、牧野英一	第三内科
13 Diabetologia (2007)50:531-537.	Fulminant type 1 diabetes as a high risk group for diabetic microangiopathy—a nationwide 5-year—study in Japan.	Y. Murase, A. Imagawa, T. Hanafusa, H. Iwahashi, Y. Uchigata, A. Kanatsuka, E. Kawasaki, T. Kobayashi, A. Shimada, I. Shimada, I. Shimizu, T. Maruyama, H. Makino	第三内科
14 NEUROINFECTION	緩徐進行性でMRIにて特異的所見を認めた個発性Creutzfeldt-Jakob病疑いの62歳女性例	小野啓之、飯田晴康、富樫慎治、長坂高村、新藤和雅、塩澤全司	神経内科
15 European Neurology 56:46-49,2006	Autopsy-Proven Creutzfeldt-Jakob Disease with a Cdon 180 Mutation Showing Dissociation between Diffusion-Weighted Magnetic Resonance Imaging and Single-Photon Emission Computed Tomography Findings	Shindo K, Shimokawa C, Ohta E, Inada H, Togashi S, Nitta K, Nagasaka T, Katoh R, Kobayashi M, Shiozawa Z	神経内科
16 Nucleic Acids Symposium Series 50;261-262 2007.2	Suppression of RUNX1 by siRNA in megakaryocytic UT-7/GM cells	Yoshiaki Okada, Ryohei Nagai, Eri Matsuura, Yusuke Hoshika, Emi Nakata, Hironori Nagura, Ayako Watanabe, Norio Komatsu, Takefumi Doi.	血液内科
17 Leuk Lymphoma.47;8:1613-1617 2006.10	Pleocytosis after hemopoietic stem cell transplantation.	Nagashima T, Muroi K, Kawano-Yamamoto C, Miyoshi T, Tatara R, Meguro A, Fujiwara S, Obara Y, Oh I, Kikuchi S, Sato K, Matsuyama T, Toshima M, Ohmine K, Ozaki K, Takatoku M, Mori M, Nagai T, Ozawa K.	血液内科
18 Biochem. Biophys. Res. Commun. 345;78-84 2006.4	RUNX1 suppression induces megakaryocytic differentiation of UT-7/GM cells	Nagai R, Natsuura E, Hoshika Y, Nagata E, Nagura H, Watanabe A, Komatsu N, Okada Y, Doi T	血液内科
19 Hematol 2006;13:151-6.	Transcriptional regulation of megakaryopoiesis: thrombopoietin signaling and nuclear factors. Curr Opin	Kirito K, Kaushansky K.	血液内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
20 Leukemia 2007;21:1005-14.	Divergent cytotoxic effects of PKC412 in combination with conventional antileukemic agents in FLT3 mutation-positive versus -negative leukemia cell lines.	Furukawa Y, Vu HA, Akutsu M, Odgerel T, Izumi T, Tsunoda S, Matsuo Y, Kirito K, Sato Y, Mano H, Kano Y.	血液内科
21 LEUKEMIA 20:2119-2129	Resistance of infant leukemia with MLL rearrangement to tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand: a possible mechanism for poor sensitivity to antitumor immunity.	Takeshi INUKAI, Zhang Xiaochun, M GOTO, Kinuko HIROSE, Kanako UNO, Koushi AKAHANE, Atsushi NEMOTO, Kumiko GOI, Hiroki SATO, Kazuya TAKAHASHI, Hiroko HONNA, Keiko KAGAMI, K NAKAMOTO, H YAGITA, K OKUMURA, T KOYAMA-OKAZAKI, Shinpei NAKAZAWA	小児科
22 てんかん研究 24:58-62	治療前後でMRI拡散強調画像が改善したWest症候群の1例	畑 園子、金村 英秋、相原 正男、中澤 眞平	
23 認知神経科学 8:149-153	Turner症候群における認知機能の神経心理学的検討	保坂 裕美、青柳 開郎、相原 正男、中澤 眞平	
24 PEDIATRIC CARDIOLOGY 27:746-749	Double-Orifice Mitral valve associated with noncompaction of left ventricular myocardium	Hisashi SUGIYAMA, Minako HOSHIAI, Takako TODA, Shinpei NAKAZAWA	
25 BRITISH JOURNAL OF HAEMATOLOGY 135:410-411	Natural pregnancy and delivery after bone marrow transplantation in a Fanconi anemia patient.	Kumiko GOI, Kanji SUGITA, Makoto NAKAMURA, Takeshi INUKAI, Hiroko HONNA, Kinuko HIROSE, Itaru KURODA, Kazuhiko HOSHI, Shinpei NAKAZAWA	
26 LEUKEMIA 20(2):363-365	Clonotypic analysis of acute lymphoblastic leukemia with a double TEL-AML1 fusion at onset and relapse.	Takeshi INUKAI, S YOKOTA, T OKAMOTO, Atsushi NEMOTO, Koushi AKAHANE, Kazuya TAKAHASHI, Hiroki SATO, Kumiko GOI, Shinpei NAKAZAWA, Kanji SUGITA	
27 Infusystems Asia 37(1):115-116	The effects of CSII on nocturnal levels of blood glucose and IGF binding protein-1 in children and adolescents with type 1 diabetes mellitus.	Hideaki YAGASAKI, Kisho KOBAYASHI, Tomohiro SAITO, Kenjiro NAGAMINE, Yumiko MITSUI, Mie MOCHIZUKI, Koji KOBAYASHI, Cho H, Kenji OHYAMA, Shin AMEMIYA, Shinpei NAKAZAWA	
28 BONE MARROW TRANSPLANTATION 37(1):115-116	A successful case of allogeneic bone marrow transplantation for osteosarcoma with multiple metastases of lung and bone.	Kumiko GOI, Kanji SUGITA, Toru TEZUKA, Hiroki SATO, Kanako UNO, Takeshi INUKAI, Shinpei NAKAZAWA	
29 山梨医学 34:133-136	山梨大学小児科における造血幹細胞移植成績:特に非血縁移植について	合井 久美子、赤羽 弘資、廣瀬 衣子、本名 浩子、黒田 格、犬飼 岳史、杉田 完爾、中澤 眞平	
30 J Affect Disord 95 (1-3): 35-42	Effects of repetitive transcranial magnetic stimulation on [ <sup>11</sup> C]raclopride binding and cognitive function in patients with depression	Kuroda Y, Motohashi N, Ito H, Ito S, Takano A, Nishikawa T, Suhara T	精神科神経科
31 Br J Psychiatry. 190 (1): 63-68	Changes in regional cerebral blood flow during acute electroconvulsive therapy in patients with depression: positron emission tomographic study	Takano H, Motohashi N, Uema T, Ogawa K, Ohnishi T, Nishikawa M, Kashima H, Matsuda H	同上

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
32 臨床透析	Double Filtration Plasmapheresis(DFPP)にて奏功した薬剤抵抗性高抗体価の落葉状天疱瘡の1例	井上 浩伸 高橋 満彦 今井 亮 岡本 崇 出口 順啓 三井 広 島田 眞路	皮膚科
33 The Journal of Dermatology	Complete remission of a primary cutaneous follicle-center cell lymphoma(EORTC criteria)/diffuse large B-cell lymphoma(WHO criteria) by single first-line therapy with rituximab	Akiko Nagasaka, Hiroyuki Matsue Tatsuyoshi Kawamura Mirei Kanzaki, Takashi Inozume Yuumi Nakamura, Akira Shimizu Naotaka Shibagaki, Mitsuaki Yanagi, Shinji Shimada	皮膚科
34 Cancer Immunology and Immunotherapy 55: 1064-1071	Clinical significance of CD4(+)CD25high regulatory T-cells in patients with gastric and esophageal cancers.	Kono K, Kaweida H, Takahashi A, Sugai H, Mimura K, Miyagawa N, Omata H, and Fujii H	第一外科
35 Free Radical Research 40(6): 579-588	Electron spin resonance and spin trapping technique provide direct evidence that edaravone prevents acute ischemia-reperfusion injury of the liver by scavenging free radicals.	Kono H, Courtney Woods, Maki A, Henry D. Connor, Ronald P. Mason, Ivan Rusyn, Fujii H	第一外科
36 J Leukoc Bio 179(4): 809-817	The Kupffer cell protects against acute lung injury in a rat peritonitis model: role of IL-10.	Kono H, Fujii H, Hirai Y, Tsuchiya M, Amemiya H, Asakawa M, Maki A, Matsuda M, and Yamamoto M	第一外科
37 Mol Cancer Ther 5(5): 1108-1116	Connective tissue growth factor-specific antibody attenuates tumor growth, metastasis, and angiogenesis in an orthotopic mouse model of pancreatic cancer.	Aikawa T, Gunn J, Spong SM, Klaus SJ, Korc M	第一外科
38 Clin Cancer Res 12(10): 2995-3002	CpG island methylation status in gastric carcinoma with and without infection of Epstein-Barr virus .	Moon-Sung Chang, Uozaki H, Ja-Mun Chong, Ushiku T, Sakuma K, Ishikawa S, Hino R, Rita Rani Barua, Iwasaki Y, Arai K, Fujii H, Nagai H, Fukayama M	第一外科
39 Cancer Immunology and Immunotherapy 55(11): 1358-1366	Substitution-analog peptide derived from HER-2 can efficiently induce HER-2-specific, HLA-A24 restricted CTLs.	Mimura K, Kono K, Scott Southwood, Johu Fikes, Takahashi A, Miyagawa N, Sugai H, and Fujii H	第一外科
40 Cancer Immunol Immunother 56(6): 761-70	Vascular endothelial growth factor inhibits the function of human mature dendritic cells mediated by VEGF receptor-2.	Mimura K, Kono K, Takahashi A, Kawaguchi Y, Fujii H	第一外科
41 Int J Cancer 120(4): 781-7	Cetuximab induce antibody-dependent cellular cytotoxicity against EGFR-expressing esophageal squamous cell carcinoma.	Kawaguchi Y, Kono K, Mimura K, Akaike H, Fujii H	第一外科
42 Anticancer Res 27(1A): 449-57	Expression of high mobility group box chromosomal protein-1 (HMGB-1) in gastric cancer.	Akaike H, Kono K, Sugai H, Takahashi A, Mimura K, Kawaguchi Y, Fujii H	第一外科
43 Ann Surg Oncol 14(3): 1182-90	Predictive power of biomarkers of oxidative stress and inflammation in patients with hepatitis C virus-associated hepatocellular carcinoma.	Maki A, Kono H, Gupta M, Asakawa M, Suzuki T, Matsuda M, Fujii H, Rusyn I	第一外科
44 World J Surg 31(4): 780-4	Trandient bloodletting of the short gastric vein in the reconstructed gastric tube improves gastric microcirculation during esophagectomy.	KonoK, Sugai H, Omata H, Fujii H	第一外科
45 J Hepatobiliary Pancreat Surg 14(3): 289-96	Predictors of hepatic venous trunk invasion and prognostic factors in patients with hepatocellular carcinomas that had come into contact with the trunk of major hepatic veins.	Matsda M, Suzuki T, Kono H, Fujii H	第一外科
46 Mod Pathol 20(6): 622-31	Non-incident al coamplification of Myc and ERBB2, and Myc and EGFR, in gastric adenocarcinomas.	Mitsui F, Dobashi Y, Imoto I, Inazawa J, Kono K, Fujii H, Ooi A	第一外科
47 脈管学	血液透析患者の下肢虚血—治療上の問題点—	進藤 俊哉、三森 義崇、滝澤 恒基、本橋 慎也、石川 成津矢、榊原 賢士、明石 興彦、加賀 重亜喜、井上 秀範、松本 雅彦	第二外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
48 日本血管外科学会雑誌	血管外科専門医制度に対する提言	進藤 俊哉、本田 義博、滝澤 恒基、本橋 慎也、榊原 賢士、加賀 重亜喜、井上 秀範、鈴木 章司、松本 雅彦	第二外科
49 Arthroscopy 22(6):689e1-689e3,2006	Arthroscopic Surgery for Degenerative Rupture of the Ligamentum Teres Femoris	Yasuhiro YAMAMOTO	整形外科
50 Mod Rheumatol; 16(2):117-119,2006	Pseudogout attack induced during etidronate disodium therapy	Hiroshi WATANABE	整形外科
51 International immunology Advance Access ;19(2):117-126, 2006	TGF- $\beta$ type I receptor kinase inhibitor down-regulates rheumatoid synovocytes and prevents the arthritis induced by type II collagen antibody	Michitomo SAKUMA	整形外科
52 International Orthopaedics; 30:315-319, 2006	Prediction of ambulation prognosis in the elderly after hip fracture	Tetsuo HAGINO	整形外科
53 The Journal of bone and joint surgery; 88-B(8):1093-1095, 2006	Fracture of the atlas through a synchondrosis of the anterior arch complicated by atlantoaxial rotatory fixation in a four-year-old child	Tetsuo HAGINO	整形外科
54 The Spine Journal; 1-5, 2007	Prospective analysis of clinical evaluation and self-assessment by patients after decompression surgery for degenerative lumbar canal stenosis	Hiroataka HARO	整形外科
55 JOURNAL OF NEUROSURGERY 105:119-128	Participation of an abnormality in the transforming growth factor- $\beta$ signaling pathway in resistance of malignant glioma cells to growth inhibition induced by that factor	Lei Zhang Eiji SATO Kenichi AMAGASAKI Atsuhito NAKAO Hirofumi NAGANUMA	脳神経外科
56 NEUROCHEMISTRY INTERNATIONAL 48(5):358-366	Brain 5H-T synthesis in the flinders sensitive line rat model of depression: An autoradiographic study	Shu HASEGAWA Kyoko NISHI Arata WATANABE David H Overstreet Mirko DIKSIC	脳神経外科
57 NUCLEAR MEDICINE AND BIOLOGY 33(3):325-332	Effects of anpirtoline on regional serotonin synthesis in the rat brain: an autoradiographic study	Arata WATANABE Akio NAKAI Yoshihiro TOYAMA Khrah Q. NGUYEN Mirko DIKSIC	脳神経外科
58 European Journal of Anaesthesiology 23(1):123-129	Isoflurane and sevoflurane during reperfusion prevent recovery from ischaemia in mitochondrial KATP channel blocker pretreated hearts	Kenichi MASUI Satoshi KASHIMOTO Atsushi FURUYA Takeshi OGUCHI	麻酔科
59 Yamanashi Med.J 21(1):9-14	Evaluation of Hemodynamics and Oxygenation in Climbers with Acute Mountain Sickness	Atsuo KAWAMURA Satoshi KASHIMOTO Zhao HANG Norimitsu NAGAMINE Shigeki MITANI Takeshi SUGAWARA	麻酔科
60 Journal of Clinical Anesthesia 18:211-215	Clonidine-ephedrine combination reduces pain on injection of propofol and blunts hemodynamic stress responses during the induction sequence	Tadahiko ISHIYAMA Satoshi KASHIMOTO Takeshi OGUCHI Atsushi FURUYA Hisashi FUKUSHIMA Teruo KUMAZAWA	麻酔科
61 循環制御-CIRCULATION CONTROL- 27(3):232-235	Effects of 1% Glucose-Containing Ringer's Solution on Intraoperative Plasma Glucose Concentration in Elderly and Young Patients	石山 忠彦 飯嶋 哲也 菅原 健 小口 健史 樫本 温	麻酔科
62 Journal of Clinical Anesthesia Volume 19, Issue 1, Pages 44-48 (February 2007)	Nicorandil decreases cardiac events during and after noncardiac surgery	Satoshi Kashimoto, Makoto Seki, Toshihiko Ishiguro, Hitoshi Yoshioka, Osamu Nagata, Kinya Nishimura, Toshihiro Kikuchi, Tatsuya Yamada, Motoyo Iwade, Akibumi Omi, et al.	麻酔科
63 Canadian Journal of Anesthesia 2007 54: 201-207	Intrathecal landiolol inhibits nociception and spinal c-Fos expression in the mouse formalin test	Hang Zhao, Takeshi Sugawara, Shihiro Miura, Tatsuya Iijima, and Satoshi Kashimoto	麻酔科
64 Journal of Anesthesia (20):240-242	Comparison between neurotrophin and mepivacaine for stellate ganglion injection	TOMOKI NISHIYAMA Takashi MATSUKAWA KOICHI YAMASHITA	手術部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
65 麻酔55(2):218-221	“盲腸ポート手術”の麻酔管理上における問題点-効率的で確実な術前評価の観点から-	高橋 邦仁 松川 隆 大川 岩夫 貴家 基 正木 幸善 熊澤 光生	麻酔科・手術部
66 TOHOKU JOURNAL OF EXPERIMENTAL MEDICINE 210:137-144	Correlation of Abnormal Mitochondrial Distribution in Mouse Oocyte with Reduced Developmental Competence.	Seiichiro NAGAI Tadashi MABUCHI Shuji HIRATA Tomoko SHODA Tsuyoshi KASAI Sadaki YOKOTA Hiroshi SHITARA Hiromichi YONEYAMA Kazuhiko HOSHI	産婦人科 分娩部 生殖医療センター
67 INTERNATIONAL JOURNAL OF GYNECOLOGICAL PATHOLOGY 25:187-194	p16INK4a Overexpression Independent on Human Papillomavirus Infection in Lobular Endocervical Glandular Hyperplasia	Akihiko HASHI Tetsuo KONDO Shin-ichi MURATA Keiko HASHI Masatoshi NARA Tsutomu YUMINAMACHI Ryohei KATOH Kazuhiko HOSHI	産婦人科 医療福祉支援センター
68 Eur.J.Gynaec.Oncol 27(3):301-303	Case study of a pregnant woman with decidualized ovarian endometriosis whose preoperative findings suggested malignant transformation	Hideki IWAMOTO Mariko SUZUKI Naoko WATANABE Makiko MINAI Shuji HIRATA Kazuhiko HOSHI	産婦人科 分娩部
69 International Journal of Urology, 13(9):1226-1232, (2006)	Decreased expression of G protein-coupled receptor kinases in the detrusor smooth muscle of human urinary bladder with outlet obstruction.	Yasuhisa Furuya, Isao Araki, Manabu Kamiyama, Hidenori Zakoji, Yoshio Takihana, Masayuki Takeda.	泌尿器科
70 Japanese Society of Endourology	The use of absorbable clips for renal parenchymal suturing makes warm ischemia time short during laparoscopic partial nephrectomy in a porcine model	Hidenori Zakoji, Teruhisa Nomura, Takayuki Tsuchida, Yasuhisa Furuya, Mizuya Fukasawa, Yoshio Takihana, Isao Araki, Masayuki Takeda.	泌尿器科
71 British Journal of Pharmacology, 148:833-844, (2006)	Profiling of functional phosphodiesterase in mesangial cells using a CRE-SEAP-based reporting system.	Ying Zhu, Jian YAO, Yiman Meng, Ayumi Kasai, Nobuhiko Hiramatsu, Kunihiko Hayakawa, Takashi Miida, Masayuki Takeda, Masahiko Okada, Masanori KITAMURA.	泌尿器科
72 International Journal of Impotence Research, 18(3):275-281, (2006)	Gene and protein expression profiles of prostaglandin E2 receptor subtypes in the human corpus cavernosum.	Mitsuo Komuro, Manabu Kamiyama, Yasuhisa Furuya, Yoshio Takihana, Isao Araki, Masayuki Takeda.	泌尿器科
73 Am J Physiol Renal Physiol, 290(5):1083-1093, (2006)	Synergistic effects of PDGF-BB and cAMP-elevating agents on expression of connexin43 in mesangial cells.	Jian Yao, Masanori Kitamura, Ying Zhu, Yiman Meng, Ayumi Kasai, Nobuhiko Hiramatsu, Tetsuo Morioka, Masayuki Takeda, Takashi Oite.	
74 American Journal of Physiology: Renal Physiology. 290(3):F641-F649, (2006)	Coordinate Control of Prostaglandin E2 Synthesis and Uptake by Hyperosmolarity in Renal Medullary Interstitial Cells.	Michael L Pucci, Endo Shinichi, Teruhisa Nomura, Run Lu, Cho Khine, Brenda S. Chan, Yi Bao, Victor L Schuster.	泌尿器科
75 Urology 68(2):318-323, (2006)	Symptom assessment tool for overactive bladder syndrome-overactive bladder symptom score.	Yukio Honma, Masaki Yoshida, Narihito Seki, Osamu Yokoyama, Hidehiro Kakizaki, Momokazu Gotoh, Tomonori Yamanishi, Osamu Yamaguchi, Masayuki Takeda, Osamu Nishizawa.	泌尿器科

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
76	Journal of Urology, 175:365-369, (2006)	Human muscarinic receptor binding characteristics of antimuscarinic agents to treat overactive bladder.	Shuji Maruyama, Tomomi Oki, Atsushi Otsuka, Hitoshi Shinbo, Seiichiro Ozono, Shinji Kageyama, Yuuki Mikami, Isao Araki, Masayuki Takeda, Keisuke MASUYAMA, Shizuo Yamada.	泌尿器科
77	International Journal of Urology, 13:401-408, (2006).	Real-time quantitative analysis for human telomerase reverse transcriptase mRNA and human telomerase RNA component mRNA expression as markers for clinicopathologic parameters in urinary bladder cancer.	Yoshihiko Takihana, Takayuki Tsuchida, Mizuya Fukasawa, Isao Araki, Nobuaki Tanabe, Masayuki Takeda:	泌尿器科
78	Chapter5 committee6 New medical developments in the management of LUTS in adult men, 143-194, (2006)	Male lower urinary tract dysfunction evaluation and management	C. Chapple, W. Artibani, S. Kaplan, M. C. Michel, P. Perrin, D. Prezioso, Masayuki Takeda, T. L. Tammela, P. Teillac	泌尿器科
79	Journal of Glaucoma:15(5):380-387	Comparison between newly developed scanning peripheral anterior chamber depth analyzer and conventional methods of evaluating anterior chamber configuration	Kashiwagi K, Tsumura T, Tsukahara S	眼科
80	あたらしい眼科 23(4):519-521	緑内障におけるFDT視野感度, OFF刺激感度, ON刺激感度の相関	小暮 諭, 飯島裕幸, 塚原重雄	眼科
81	Am J Ophthalmol 143(1):125-130	The OPA1 gene polymorphism is associated with normal tension and high tension glaucoma	Mabuchi F, Sa Tang, Kashiwagi K, Yamagata Z, Iijima H, Tsukahara S	眼科
82	耳鼻咽喉科臨床,99(11):951-954	喫煙習慣と扁桃周囲膿瘍	上條 篤 島田 貴信 森山 元大 高橋 吾郎 増山 敬祐	耳鼻咽喉科
83	J. Clinical Oncology 24(18S):375s,2006	Stereotactic hypofractionated high-dose irradiation (STI) for stage I non-small cell lung cancer (NSCLC): Mature results in 300 cases of a Japanese multi-institutional study.	H Onishi, Y Nagata, H Shirato, et al.	放射線科
84	J. Clinical Oncology 25(18s):415s,2007.	Stereotactic radiotherapy (SRT) for operable stage I non-small cell lung cancer: Is SRT comparable to surgery?	H Onishi, Y Nagata, H Shirato, et al.	放射線科
85	Phys. Med. Biol. 51:5409-5417, 2006.	Dosimetric verification in participating institutions in a stereotactic body radiotherapy trial for stage I non-small cell lung cancer: Japan clinical oncology group trial (JCOG0403)	T Nishio, E. Kunieda, H. Shirato, S. Ishikura, H Onishi, K Tateoka, M Hiraoka, Y Narita, M Ikeda, T Goka.	放射線科
86	Int J Radiat Oncol Biol Phys 66, S462, 2006.	A simple and efficient irradiation system for a lung tumor with small internal margin: patient's self-breath-hold using a newly developed respiratory indicator (Abches) and self-turning radiation-beam on and off.	H Onishi, K Marino, N Sano, et al.	放射線科
87	日本放射線技術学会誌 62:661-669,2006	体幹部(主に肺)の定位放射線治療.	大西 洋	放射線科
88	山梨肺癌研究会誌 20:41-45,2007.	I期非小細胞肺癌に対する定位放射線治療の現状.	大西 洋、萬利乃寛、 斉藤 亮、荒屋正幸、 青木真一、栗山健吾 小宮山貴史、荒木 力	放射線科
89	日本放射線技術学会誌 62:661-669, 2006.	体幹部(主に肺)の定位放射線治療.	大西 洋	放射線科
90	日放腫会誌 18:2-18,2006.	体幹部定位放射線治療ガイドライン.	大西 洋 遠藤真広	放射線科
91	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology, and Endodontics. 102(6):719-724 (2006)	A new evaluation method for neuroparalysis in the chin of patients undergoing mandibular sagittal split ramus osteotomy: an application of the heat flux technique	Kabasawa Y, Harada K <i>et al.</i>	歯科口腔外科
92	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology, and Endodontics.102(3):292-299 (2006)	Long-term maxillomandibular skeletal and dental changes in children with cleft lip and palate after maxillary distraction.	Harada K, Sato M, <i>et al.</i>	歯科口腔外科
93	Journal of Cranio-Maxillofacial Surgery. 34:270-276 (2006)	Effect of recombinant human bone morphogenetic protein-2 (rhBMP-2) on distraction osteogenesis: A preliminary study in rabbit mandible.	Yonezawa H, Harada K, <i>et al.</i>	歯科口腔外科

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
94	日本顎変形症学会雑誌. 16(1):8-11 (2006)	下顎の後方移動術に伴うオトガイ部軟組織の変化—下顎枝矢状分割術単独施行症例とオトガイ形成術併用症例との比較—	大町 浩史、原田 清、他	歯科口腔外科
95	Journal of Japanese Society of Oral Implantology. 19(4):430-438 (2006)	Influence of sex differences and menopause on mandibular bone quantity and quality.	Munakata M	歯科口腔外科
96	Thromb Res. 2007;120(2):251-8.	Involvement of Src kinases and PLCgamma2 in clot retraction.	Suzuki-Inoue K, Hughes CE, Inoue O, Kaneko M, Cuyun-Lira O, Takafuta T, Watson SP, Ozaki Y.	臨床検査医学、 検査部
97	J Virol. 2006 Sep;80(18):8951-60.	DC-SIGN and CLEC-2 mediate human immunodeficiency virus type 1 capture by platelets.	Chaipan C, Soilleux EJ, Simpson P, Hofmann H, Gramberg T, Marzi A, Geier M, Stewart EA, Eisemann J, Steinkasserer A, Suzuki-Inoue K, Fuller GL, Pearce AC, Watson SP, Hoxie JA, Baribaud F, Pohlmann S.	臨床検査医学、 検査部
98	Eur J Pharm Sci. 2007 Jan;30(1):21-5.	Inhibitory effects of ticlopidine on platelet function as assessed by three different methods.	Cuyun-Lira O, Kaneko M, Takafuta T, Satoh K, Ohnishi M, Yatomi Y, Ozaki Y.	臨床検査医学、 検査部
99	Transl Res. 2006 Aug;148(2):79-86.	Analysis of prognostic factors in therapeutic responses to interferon in patients with chronic hepatitis C.	Hosogaya S, Ozaki Y, Enomoto N, Akahane Y.	臨床検査医学、 検査部
100	J Exp Clin Cancer Res. 26; 2: 215-220 2007.	Loss of cytokeratin 13 Expression in squamous cell carcinoma of the tongue is a possible sign for local recurrence.	Yanagawa T, Yoshida H, Yamagata K, Onizawa K, Tabuchi K, Koyama Y, Iwasa S, Shimoyanada H, Harada H, Omura K.	病理部



(様式12)

診療並びに病院管理及び運営に関する諸記録の管理方法

責任管理者氏名	病院長 星 和彦
管理担当者氏名	総務課長 多胡 義一、医事課長 堀口 幸典、経営企画室長 石原 義久

諸 記 録		保管場所	分 類 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、検査所見記録 紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約、手術記録 処方せん 看護記録 各科診療日誌、エックス線写真		病歴室 薬剤部 看護部 各診療科	カルテ及び検査所見記録等は、1患者1ファイルで、すべて病歴室で一元管理している。 エックス線写真は、各診療科で保存管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業員数を明らかにする帳簿	総務課	病院の管理及び運営に関する諸記録は、左の保管場所で保存管理している。
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	関 覧 実 績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
体制確保の状況及び第11条各号に掲げる	規則第9条の2	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理室
	規則第9条の3	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理室
	規則第9条の2	当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	安全管理室
	規則第9条の3	医療に係る安全管理のための指針	安全管理室
	規則第11条	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理室
	規則第11条	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理室
	各号	医療機関内の事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理室

(様式第13)

○病院管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 星 和彦
閲覧担当者氏名	総務課長 多胡義一、医事課長 堀口幸典、経営企画室長 石原義久
閲覧の求めに応じる場所	総務課、医事課、経営企画室

○病院管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

前年度の総閲覧件数		延	5件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	1件
	地方公共団体	延	4件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	62.0%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	8,484人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	4,498人	
	C: 救急自動車によって搬入された患者の数	388人	
	D: 初診の患者の数	17,062人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式 13—2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 1 条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の設置状況	有 (1名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>・ 所属職員： 専任 ( 1 ) 名 兼任 ( 27 ) 名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 安全管理委員会及び医療事故調査委員会に関する事項</li><li>・ 事故等に関する診療録及び看護記録等への記載が正確かつ十分にされているかの確認及び必要な指導</li><li>・ 事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認及び必要な指導</li><li>・ 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び必要な指導</li><li>・ 医療安全に係る連絡調整に関する事項</li><li>・ インシデントレポート及び状況報告書の確認</li><li>・ インシデント等に関する調査及び分析</li><li>・ 改善策の検討及び策定</li><li>・ 職員に対する情報提供</li><li>・ 改善策の実施状況の監視及び指導</li><li>・ 医療事故防止マニュアルの見直し</li><li>・ 安全対策に関する教育の企画及び実施</li></ul>	
④ 当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全の基本的考え方</li><li>・ 安全管理の体制を確保するために、安全管理委員会及び安全管理室の設置</li><li>・ 医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の設置</li><li>・ 安全体制の確保のために、職員研修の企画・実施</li><li>・ 「医療事故等発生報告書」、「状況報告書」、「インシデントレポート」の入力、報告及び対策</li><li>・ 事故発生時の対応マニュアルの整備及び事故発生時の対応</li><li>・ 安全管理のためのマニュアルを整備し、安全管理委員会に届け出る</li><li>・ 安全管理のための責任者 (リスクマネージャー) を定め、病院の安全管理の体制確保に努める</li><li>・ 患者相談対応</li><li>・ 指針の閲覧</li></ul>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回

- ・活動の主な内容：
  - ・ 安全管理体制の整備，安全管理のためのマニュアル整備
  - ・ 医療事故等の防止及び対策並びに実施
  - ・ 安全管理のための職員研修
  - ・ 患者に重篤な傷害が生じた場合の対応
  - ・ 使用する医薬品の安全管理
  - ・ 使用する医療機器の安全管理
  - ・ 立案した改善策の実施状況の調査及び見直し
  - ・ 医療従事者と患者との情報の共有
  - ・ 患者からの相談への対応

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年6回

- ・研修の主な内容：
  - ・ 5月26日 AED勉強会（計4日開催）
  - ・ 6月28日 事例検討会（計4日開催）
  - ・ 7月3日 医療安全について（講演）
  - ・ 9月27日 第1回医療安全活動報告会
  - ・ 12月19日 安全な居心地の良い医療現場とは－患者体験を通じての提言（講演）
  - ・ 2月20日 第2回医療安全活動報告会

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・医療機関内における事故報告等の整備 (  有  無 )

- ・その他の改善のための方策の主な内容：
  1. 『インシデントレポートシステム』による運用を行っており，インシデントレポートの第1報が入力されると，あらかじめ決められた安全管理室員が内容を把握し，関連する部門のリスクマネージャーに情報を伝える。情報を受けた各リスクマネージャーはインシデントの状況確認及び原因の詳細説明，再発防止策を検討し，第2報として報告する。第2報は，担当する安全管理室員が内容を検討し，内容が不十分な場合は担当のリスクマネージャーに差し戻し，再検討を依頼する。十分の場合は保存レポートとして終了する。
  2. 提出された内容に基づき，重要事例について安全管理委員会及び安全管理室会議において組織としてのインシデントの分析及び問題点を検討する。
  3. 上記で検討された内容に対し，重要事例について同委員会及び同会議において改善策を検討する。その結果を各部門のリスクマネージャーに報告し，具体的な改善策を検討及び周知させたり，ゼネラルリスクマネージャーが直接指導をしたりして実行に移している。

改善事例

- ・患者からの暴力に対する取り組み：実態調査，ハラスメント等に対するマニュアル整備，接遇チェック表・身だしなみチェック表の作成と実態調査，コードホワイトWGによる暴力対応の検討
- ・電子カルテ上で患者アレルギー情報の確認を容易にした
- ・経腸・経管用に使用する静脈注射用の1ccカテーテルチップ型黄色シリンジの導入
- ・輸液ポンプ・シリンジポンプにショックウォッチを装着し，落下等によるのバッテリー外れの早期発見ができるようにした